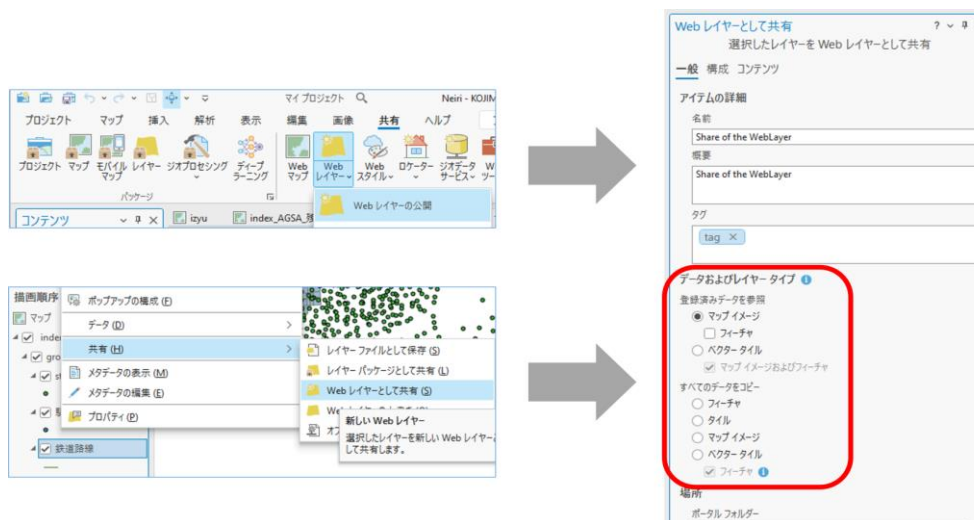


ArcGIS Pro から Portal ポータルサイトに公開できるレイヤー タイプとその格納先

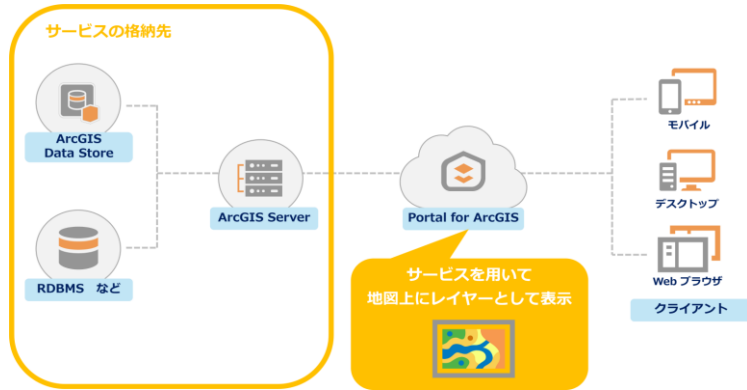
データおよびレイヤータイプ (ツールの選択項目) (※1)	レイヤー (※2) タイプ (ツールの選択項目)	種類/名称	レイヤー タイプ (※4) (ポータルサイト上での表記)	レイヤーのアイテムの格納先	サービス (※3) の格納先	サービスのデータ格納先 (ArcGIS Server が参照している場所)
登録済データを参照 (※6)	マップイメージ + フィーチャ (選択任意)	マップ イメージレイヤー	Map Image Layer	ポータル サイトのコンテンツ C:\%arcgisportal%\content\%items	レイヤーの実態はサービス。 そのサービスを管理しているのは ArcGIS Server C:\%arcgisserver%\directories\%arcgissystem%\ arcgisinput	データストア (RDBMS 等) (※9)
		フィーチャ レイヤー	Feature layer			ArcGIS Data Store (※8)
	ベクタータイル + マップイメージおよびフィーチャ (選択必須、3点あわせて公開)	ベクター タイルレイヤー	Tile layer (ホスト) (※5)			データストア (RDBMS 等) (※9)
		マップ イメージレイヤー	Map Image Layer			ArcGIS Data Store
すべてのデータをコピー (※7)	フィーチャ	ホスト フィーチャ レイヤー	Feature layer (ホスト)	C:\%arcgisserver%\directories\%arcgissystem%\ arcgisinput	ArcGIS Data Store	
	タイル	ホスト タイルレイヤー	Tile layer (ホスト) (※5)		C:\%arcgisserver%\directories\%arcgissystem%\arcgisinput (※10)	
	マップイメージ	マップ イメージレイヤー	Map Image Layer		ArcGIS Data Store	
	ベクタータイル + フィーチャ (選択任意)	ベクター タイルレイヤー	Tile layer (ホスト) (※5)		ArcGIS Data Store	
		ホスト フィーチャ レイヤー	Feature layer (ホスト)			

※1 データおよびレイヤータイプ



※2 レイヤー

- ・サービス（マップサービスやフィーチャサービスなど）を、ポータルサイト上のマップやアプリで使用するために、マップやアプリに追加したもの。
- ・ArcGIS Server と Portal for ArcGIS の連携（フェデレート・ホスティングサーバーの登録）した、Portal for ArcGIS ポータルサイト上のマップやアプリ上で表示される「レイヤー」は、ArcGIS Server や ArcGIS Data Store、データベース（RDBMS・FGDB など）に格納されている、「サービス（レイヤーの実態）」を用いて、地図上に表示されたもの。
 フェデレート [サーバーの構成—Portal for ArcGIS | ArcGIS Enterprise のドキュメント](#)
 ホスティングサーバーの登録 [ホスティングサーバーの構成—Portal for ArcGIS | ArcGIS Enterprise のドキュメント](#)
 RDBMS [エンタープライズ ジオデータベースと ArcGIS Enterprise—ArcGIS Server | ArcGIS Enterprise のドキュメント](#)
 FGDB [ファイル ジオデータベース—ArcGIS Pro | ドキュメント](#)



※3 サービス

- ・ArcGIS Server のサービス。マップサービス（地図を配信する機能）やフィーチャサービス（地図を配信する機能+編集機能）など配信する機能。

※4 レイヤー タイプ

- ・右図の赤枠の箇所から、レイヤータイプを確認可。



※5

- ・ポータルサイト上での、ベクター タイル レイヤーとホスト タイル レイヤーにおけるレイヤー タイプの表記は、両方「Tile layer (ホスト)」となるが、アイコンが異なる。



※6 [登録済データを参照] で公開した場合

- ・ポータルサイトへの公開後に、ArcGIS Pro 上で行ったリソースの変更が、公開したレイヤーやサービスに即座に反映される。

※7 [すべてのデータをコピー] で公開した場合

- ・ポータルサイトへの公開後に、ArcGIS Pro 上で行ったリソースの変更が、公開したレイヤーやサービスに反映されることが基本的におきない。

※8

- ・通常、[登録済データを参照] を選択して公開した場合の「サービスのデータ格納先」は、データストア（RDBMS 等）。
- ・[登録済データを参照] と [すべてのデータをコピー] のどちらを選択しても、「サービスのデータ格納先」は、ArcGIS Data Store になる仕様。
 →ベクタータイルレイヤーは、ArcGIS Server と Portal for ArcGIS の連携（フェデレーション・ホスティング）を行った、ポータルサイト上ではじめて、利用することができるレイヤー。
 →ベクタータイルレイヤーは、レイヤーの中でも比較的最近登場したレイヤーであるため、他のレイヤーと仕様が異なる。
- ・RDBMS に格納していたレイヤーを、ベクタータイルレイヤーとして、公開（登録済データを参照）しても、ArcGIS Pro 上で行ったリソースの変更が、公開したレイヤーやサービスに反映されない仕様。

※9 RDBMS

格納先の選定

- ・エンタープライズ ジオデータベース
- ・同時編集をしたい場合、フィーチャ レイヤーのリソースは、RDBMS に格納する。
- ・マップ イメージ レイヤーのみ参照して公開したい・フィーチャ レイヤーの同時編集機能はなくてもいい場合は、RDBMS 以外のファイル ジオデータベースやローカルフォルダでも可

※10

- ・[すべてのデータをコピー] を選択して、「ホスト レイヤー」として公開した場合の「サービスのデータ格納先」は、ArcGIS Data Store。
- ・[Web レイヤーとして共有] という機能で選択できる [マップ イメージ レイヤー] は、「ホスト レイヤー」に属している「ホスト マップ イメージ レイヤー」として公開されない。
[ホスト Web レイヤーの Web フィーチャレイヤーからの公開—ArcGIS Pro | ドキュメント](#)
- ・「ホスト」が見つからない「マップ イメージ レイヤー」として公開されるので、「サービスのデータ格納先」は、ArcGIS Data Store ではない。